地域が学び、見守り・支える活動

福祉会だより

令和３年１１月号Ｎｏ．１
羽島市社会福祉協議会事務局
令和３年１１月４日発行

このたび「福祉会だより」を作成しました。今後、お便りを通して、福祉会活動の紹介やお役立ち情報などをみなさんに発信し、活動の参考に、福祉会同士のつながりや福祉会の普及のきっかけになればと思います。

第１号では、定期的に福祉会活動を行っている「大光福祉会（正木町）」をご紹介させていただきます。

一人で抱え込まず、みんなで共有し、考える

大光福祉会

☆メンバー☆

上大浦地区と光法寺地区の区長・副区長、民生委員、社会福祉委員、老人クラブの会長・副会長・書記・会計、子ども会の会長・副会長・書記・会計の計１６名で構成しています。

昨年度からは感染予防対策のため、自治会・老人クラブ・子ども会は代表者のみの参加としています。

☆開催頻度☆

ふれあいサロンの活動終了後に行っています。ふれあいサロンの休止期間中は、２ヶ月に１回、活動の場を設けています。

☆活動内容☆

最初に、各団体から２ヶ月間の活動報告をしています。そして、ふれあいサロン活動の再開や地域の行事の開催などについて話し合ったり、見守りをしている方や気になる世帯などについて情報共有をしたりしています。

みなさん、お元気でした。洗剤と脳トレプリント、喜んでみえました。

おみこしの準備は中止になりました。

シールが貼っていない旧可燃ごみの袋が残っていました。

〇〇さんが隣の△△さんの体調の変化を気にしていた。近所の目はすごいと思った。

参加者の声

＊定期的に福祉会活動を行うことについて＊

- いろんな立場の方が集まって話をする機会がないため、情報共有・交換ができて良い。
- 定期的に集まることが負担に感じるが、知らなかった情報を得ることができる。
- 一人で「どうしよう…」と抱え込むのはつらい。みんなに相談し、アドバイスをもらえることが有難い。

「福祉会だより」は共同募金の配分金により作成しました。